



Red Hat OpenShift Service on AWS 4

Red Hat OpenShift Cluster Manager

OpenShift Cluster Manager を使用した AWS クラスターでの Red Hat OpenShift サービスの設定

Red Hat OpenShift Service on AWS 4 Red Hat OpenShift Cluster Manager

OpenShift Cluster Manager を使用した AWS クラスターでの Red Hat OpenShift サービスの設定

Enter your first name here. Enter your surname here.

Enter your organisation's name here. Enter your organisational division here.

Enter your email address here.

法律上の通知

Copyright © 2022 | You need to change the HOLDER entity in the en-US/Red_Hat_OpenShift_Cluster_Manager.ent file |.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、OpenShift Cluster Manager を使用した Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA) クラスターの設定に関する情報を提供します。

目次

第1章 RED HAT OPENSIFT CLUSTER MANAGER	3
1.1. RED HAT OPENSIFT CLUSTER MANAGER へのアクセス	3
1.2. 一般的なアクション	3
1.3. クラスタータブ	4
1.3.1. 概要タブ	4
1.3.2. アクセス制御タブ	5
1.3.3. アドオンタブ	5
1.3.4. ネットワークタブ	5
1.3.5. Insights Advisor タブ	5
1.3.6. マシンプールタブ	6
1.3.7. Support タブ	6
1.3.8. Settings タブ	6
1.4. 関連情報	6

第1章 RED HAT OPENSIFT CLUSTER MANAGER

Red Hat OpenShift Cluster Manager は、Red Hat OpenShift クラスターのインストール、修正、操作、およびアップグレードを可能にする管理サービスです。このサービスを使用すると、単一のダッシュボードから組織のすべてのクラスターを操作できます。

OpenShift Cluster Manager は、OpenShift Container Platform、Red Hat OpenShift Service on AWS (ROSA)、および OpenShift Dedicated クラスターのインストールをガイドします。また、自己インストール後の OpenShift Container Platform クラスターと、ROSA および OpenShift Dedicated クラスターの両方を管理するロールも果たします。

OpenShift Cluster Manager を使用して、以下のアクションを実行できます。

- 新規クラスターの作成
- クラスターの詳細とメトリックの表示
- スケーリング、ノードラベルの変更、ネットワーキング、認証などのタスクでクラスターの管理
- アクセス制御の管理
- クラスターの監視
- アップグレードのスケジュール

1.1. RED HAT OPENSIFT CLUSTER MANAGER へのアクセス

設定した OpenShift アカウントを使用して OpenShift Cluster Manager にアクセスできます。

前提条件

- OpenShift 組織の一部であるアカウントがある。
- クラスターを作成している場合、組織はクォータを指定している。

手順

- ログインクレデンシャルを使用して、[OpenShift Cluster Manager Hybrid Cloud Console](#) にログインします。

1.2. 一般的なアクション

クラスターページの右上には、ユーザーがクラスター全体で実行できるアクションがいくつかあります。

- **Open Console** は、クラスターの所有者がクラスターにコマンドを発行できるように Web コンソールを起動します。
- **Actions** ドロップダウンメニューを使用すると、クラスターの所有者は、クラスターの表示名の名前を変更したり、クラスター上のロードバランサーと永続ストレージの量を変更したり、必要に応じてノード数を手動で設定したり、クラスターを削除したりできます。
- **Refresh** アイコンは、クラスターの更新を強制します。

1.3. クラスタータブ

アクティブなインストール済みクラスターを選択すると、そのクラスターに関連付けられているタブが表示されます。クラスターのインストールが完了すると、次のタブが表示されます。

- 概要
- アクセス制御
- アドオン
- ネットワーキング
- Insights Advisor
- マシンプール
- サポート
- 設定

1.3.1. 概要タブ

Overview タブには、クラスターがどのように設定されたかに関する情報が表示されます。

- **Cluster ID** は、作成されたクラスターの一意的 ID です。この ID は、コマンドラインからクラスターにコマンドを発行するときに使用できます。
- **Type** は、クラスターが使用している OpenShift のバージョンを示します。
- **Region** はサーバーリージョンです。
- **Provider** は、クラスターが構築されたクラウドプロバイダーを示します。
- **Availability** は、クラスターが使用する可用性ゾーンのタイプ (シングルゾーンまたはマルチゾーン) を示します。
- **Version** は、クラスターにインストールされている OpenShift バージョンです。利用可能な更新がある場合は、このフィールドから更新できます。
- **Created at** は、クラスターが作成された日時を示します。
- **Owner** は、クラスターを作成したユーザーを識別し、所有者権限を持っています。
- **Subscription type** は、作成時に選択されたサブスクリプションモデルを示します。
- **Infrastructure type** は、クラスターが使用するアカウントのタイプです。
- **Status** には、クラスターの現在のステータスが表示されます。
- **Total vCPU** は、このクラスターで使用可能な仮想 CPU の合計を示します。
- **Total memory** は、このクラスターで使用可能な合計メモリーを示します。
- **Load balancers**
- **Persistent storage** は、このクラスターで使用可能なストレージの量を表示します。

- **Nodes** には、クラスター上の実際のノードと目的のノードが表示されます。これらの数値は、クラスターのスケールリングが原因で一致しない場合があります。
- **Network** フィールドには、ネットワーク接続のアドレスと接頭辞が表示されます。
- タブの **Resource usage** セクションには、使用中のリソースがグラフで表示されます。
- **Advisor recommendations** セクションでは、セキュリティー、パフォーマンス、可用性、および安定性に関する洞察を提供します。このセクションでは、リモートヘルス機能を使用する必要があります。[Insights を使用したクラスターの問題の特定](#) を参照してください。
- **Cluster history** セクションには、作成や新しいバージョンの識別など、クラスターで行われたすべてのことが表示されます。

1.3.2. アクセス制御タブ

Access control タブを使用すると、クラスターの所有者は ID プロバイダーをセットアップし、昇格されたアクセス許可を付与し、他のユーザーにロールを付与できます。

前提条件

- クラスターの所有者であるか、クラスターでロールを付与するための適切な権限がある。

手順

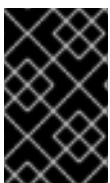
1. **Grant role** ボタンを選択します。
2. クラスターでロールを付与するユーザーの Red Hat アカウントログインを入力します。
3. ダイアログボックスの **Grant role** ボタンを選択します。
4. ダイアログボックスが閉じ、選択したユーザーにクラスターエディターアクセスが表示されません。

1.3.3. アドオンタブ

Add-ons タブには、クラスターに追加できるすべての任意のアドオンが表示されます。目的のアドオンを選択し、表示されるアドオンの説明の下にある **Install** を選択します。

1.3.4. ネットワークタブ

Networking タブには、コントロールプレーン API エンドポイントおよびデフォルトのアプリケーションルーターがあります。コントロールプレーン API エンドポイントおよびデフォルトのアプリケーションルーターの両方を、それぞれの下にあるそれぞれのボックスを選択することでプライベートにすることができます。



重要

セキュリティートークンサービス (STS) インストールの場合、これらのオプションは変更できません。STS インストールでは、プライバシーを変更したり、ルーターを追加したりすることもできません。

1.3.5. Insights Advisor タブ

Insights Advisor タブは、OpenShift Container Platform の Remote Health 機能を使用して、セキュリティ、パフォーマンス、可用性、および安定性に対するリスクを特定して軽減します。OpenShift Container Platform のドキュメントで、[Insights を使用してクラスタの問題を特定](#) を参照してください。

1.3.6. マシンプールタブ

Machine pools タブでは、使用可能なクォータが十分にある場合、クラスタ所有者は新しいマシンプールを作成できます。もしくは、既存のマシンプールを編集できます。

More options > Scale を選択すると、Edit node count ダイアログが開きます。このダイアログでは、アベイラビリティゾーンごとのノード数を変更できます。自動スケーリングが有効になっている場合は、自動スケーリングの範囲を設定することもできます。

1.3.7. Support タブ

サポート タブでは、クラスタ通知を受け取る必要がある個人の通知連絡先を追加できます。指定するユーザー名または電子メールアドレスは、クラスタがデプロイされている Red Hat 組織のユーザーアカウントに関連付けられている必要があります。通知連絡先を追加する手順については、[クラスタ通知連絡先の追加](#) を参照してください。

また、このタブからサポートケースを開いて、クラスタのテクニカルサポートを依頼することもできます。

1.3.8. Settings タブ

Settings タブには、クラスタ所有者向けのいくつかのオプションがあります。

- **Monitoring** (デフォルトで有効) ユーザー定義のアクションで実行されたレポートが可能になります。[モニターリングスタックについて](#) を参照してください。
- **Update strategy** を使用すると、クラスタが特定の曜日の指定された時刻に自動的に更新されるかどうか、またはすべての更新が手動でスケジュールされるかどうかを判別できます。
- **Node draining** は、更新中に保護されたワークロードが有効となる期間を設定します。この期間が経過すると、ノードは強制的に削除されます。
- **Update status** には、現在のバージョンと、利用可能な更新があるかどうかが表示されます。

1.4. 関連情報

- OpenShift Cluster Manager の完全なドキュメントについては、[OpenShift Cluster Manager のドキュメント](#) を参照してください。
- クラスタ通知連絡先を追加する手順については、[クラスタ通知連絡先の追加](#) を参照してください。